

実習1日目

HKS本社にてFコンVプロの概略とエンジンセッティングの基礎

1日の講習では、FコンVプロの開発者である赤尾さんを講師に迎え、フルコンによるセッティングの内容とFコンVプロ(フルコン)に関する知識、セッティングソフトの使い方の基礎などを講習が座学で行われた。

セッティングの詳細に関しては初めてという学生もいて、説明の内容についていくのに必死ながらも真剣に聞き入る学生たちの姿が見られた。

セッティングに関しては、なかなか1度の授業で身に付くものではないが、赤尾講師の丁寧な解説で、何をやるのか? どうするのか? というセッティングのイメージは各自つかみ取ることができたようだ。



講師
HKS
自動車開発部
赤尾さん

講義終了後にはHKSミュージアムを見学

せっかく学生たちがHKSを訪れたので、講習後には特別展示室、HKSミュージアムを見学。モータースポーツ科の学生だけに、既代ワークマシンやHKSの手がけたエンジンなど、ミニアートな模型や縮尺まで並ぶるところにはもうへトへだ…。



実習2日目 AM

日本自動車大学校にてセッティングの行程解説

実習2日目はNATSのシャーシダイナモを使ってのセッティングの実演とノーマル車両との乗り比べを予定していたが、まずは朝イチで当日の担当である高橋講師による、セッティングに関する講義から。

この日は講義の内容よりも実践的で、ベースデータを作った時の内容や、今日の実演で行うこと試すこと、いいセッティングを実現していくためのポイントなどが説明された。

また「プロとしては、全体に感覚だけでのセッティングは行わず、A/F計やオシロスコープ、シャーシダイナモの数値など、ひとつでも多くのデータを収集しながらセッティングをすること」「エンジンを頑張っていいないので、セッティングは少しづつ時間をかけて、煮詰めていくこと」など高橋講師の経験からアドバイスや持論も学生に伝えられた。

そして午前の講義は修了し、いよいよ午後からはセッティングの時間だ。



講師
セールスエンジニア
高橋さん

モータースポーツ科の学生がFコンVプロを教材に体験実習

いうわけだ。

NATSのモータースポーツ科で

は、レースシーズンを終えた年明けのタイミングで、コンピューターセッティングに関して授業が行われている。ちょうどその授業の時期に、FコンVプロのパワーライターセットが発売開始となるということで、実習の教材としてFコンVプロを体験してみようということになったのだ。

そんな流れで教材車両として用意されたのが、今後耐久レースなどに参加する予定のヴィッツRS。電子スロットルや可変バルタイも備えてるうえ、ターボ車と比べるとセッティング不良によるトラブルも起こしにくいNA。つまり、ECUセッティングの教材車両としても最適といえるものだ。

実習の内容としてはHKSの本校にて座学を1日、そしてNATSの校舎にて座学→シャーシダイナモを使ったセッティングの実演とその行程の説明→ノーマル車両とセッティング変更した車両の乗り比べなどを行われた。

ECUセッティングを身につけるにはかなり駆け足な実習ではあるけれど、その行程をいちど経験したことで、学生たちのセッティングに対する理解と興味は大きく深まった様子だ。

これまで、学生たちがそれほど意識しなかつたエンジンのセッティングに意識を向けるようになり、その後の達成感を感じたっていうだけでも、HKSのコラボ実習の第一回目は、間違いの成果をあげたといえそうだ。彼らが業界を背負って立つようになつた時、この経験を役立ててもうれるのが楽しみだ。



2月号でもお伝えした通り、これまでプロツールとして内部情報へのアクセスが制限されていたFコンVプロだが、パワーライターセットの発売開始により、ユーザーに対してアクセス権が解放されることとなった。この発売をきっかけに、HKSと日本自動車大学校(NATS)がコラボして、モータースポーツ科の学生たちがFコンVプロを教材にした実習を行うことになったという。というわけで、2日間にわたって行われた体験実習に密着してきたのでココで紹介しよう。

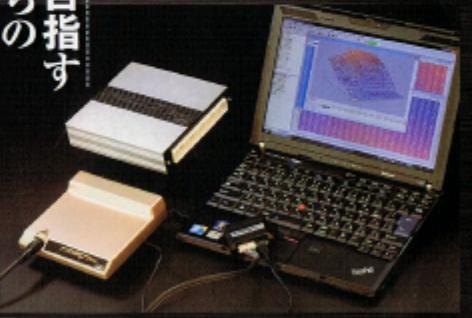
サンプル車両

NATSモータースポーツ科の生が、耐久レースなどで実習を行ったために専用されている教材車両の1台、ヴィッツRS。ロードスターが入り、カーラーリングや車高調などほかにもサーキット仕様といわれる印象を受けるが、機関系は基本的にノーマル。しかし、可変バルタイや電子スロットルによるセッティングを学ぶには最適なスペックの車両と言える。



NATS×HKS F-CON V Pro 体験記

プロを目指す
学生たちの



装着するのは FコンVプロ Ver.4.0

ヴィッツRSには、車種別ハーネスの対応がない。そこで、今回は汎用ハーネスを使っての装着となった。本来なら表着作業も学生に実習として経験してもらいたかったが、今回は時間の都合で、基本作業の説明の後HKSが車両を預かって表着することになった。